

弘大と市「弘前×フランス」プロジェクト



さまざまなイベントで弘前とフランスの国際交流を目指す学生たち

「市民の興味深めたい」

プロジェクトは、地域住民の国際化への興味・理解を深めてもらうことや、地域連携などを通じた大学生教育、国際交流ワークショップの可能性などを探るため、大学と市が連携して実施。初年度となる今年度は、地域のネットワークづくりとして月1回ペースでイベントを行う他、弘前市市民参加型まちづくり1%システム対象事業「を活用した「音楽の祭日in弘前」開催、リーフレット制作を計画している。

2015年度には、秋ごろをめどに「フランスウィーク」を設定

街を舞台に国際体験

毎月1回 イベント 言語や文化多彩に

フランス語で弘前を「学びのキャンパス」に。弘前大学地域未来創生センターと弘前市は、国際化の感受性を養う「弘前×フランス」プロジェクトを今年度から始めた。弘大仏語ホームページを通じて集まった弘大生らでつくる「Cercle Francophone(セクル・フランコフォンヌ)」は、弘前の街を

舞台に仏語や文化が体験できるイベントを毎月1回ペースで実施。世界共通語として学ぶ機会が多い英語以外の外国語に関するイベントを展開し、さまざまな外国語に触れてもらうことで、市民の国際化への興味醸成を目指す。今月31日にはフランス発祥の球技・バタンの体験イベントを開く。

(成田真矢)

し、フランスにちなんださまざまなイベントを開催。地域の中学、高校生に複言語・複文化環境を体験したことからアンケータも行う予定。16年度にはアジア圏の学生を対象にしたモニターツアーを計画している。

「音楽の祭日」リーダーの人文学部4年の永井温子さんは「弘前

とフランスを結び付けることで、大学と弘前、人と弘前、人と人をつなげたい」と意欲。

プロジェクトの代表を務める同学部の熊野レクリエーション広場でバタンの体験イベントを開催する。希望者は名前、年齢、電話番号を明記して、弘前市バタン協会へファクス(0172-883480)か弘前×フラン

に参加してもらい、複言語環境に触れたことでの意識変化を調べたい」と話した。

今月31日は弘前公園

スプロジェクトへメール(Frenchjp@cc.hi.nu)締め切りは28日。